

報道機関各位

2021年1月25日

B&K 防災生活研究会

～ニューノーマルの新年だからこそ、首都直下地震に備え自助力を意識づける～
本格演劇「東京（携帯式）ヘルメット物語」 1月27日よりYouTubeで配信
 ～コロナ禍に演劇ができること「日常防災をテーマ」に劇団との初コラボ実現～

携帯式ヘルメットA4シェルター・タフを考案し、全国に普及している防災生活研究会（新潟市）では、コロナ禍における首都圏での防災について表記の普及活動を開始しました。人々の日常が変化し、会社等集団の共助の体制から、個人の自助の備えが強く求められる今こそ、この意識改革の必要性を訴求すべく、劇団 B.LET'S とドラマ三篇を製作、YouTube で配信を開始します。

「何時と分からない首都直下地震に備える持続可能な防災」を防災生活研究会では2012年の設立以来問い続けてきました。携帯式ヘルメットA4シェルター・タフは、従来事業所や学校での団体が主な利用者でした。しかし今、団体の防災訓練もままならない状況です。A4シェルター・タフも日常を共にしてこそ「その時」に備えることができます。手許の防災用品はいざという時の実用価値もさることながら、ともすれば薄れがちになる防災意識を日々呼び起こしてくる効果があります。「穏やかな日常に、さりげなく防災を」。この思いを、東京で忙しくビジネスに携わる人々と広く共有するため、さまざまな手段を考え、結実したのが本企画です。

劇団 B.LET'S（ビーレッツ）もコロナ禍で活動が大幅に制限される中、演劇の表現する力、伝える力を今の世の中で活かす道を模索されており、そんななか今回の出会いがありました。

今回のコラボにより誕生したのが「東京（携帯式）ヘルメット物語」。①母の愛、②当たって砕ける前、③本当に大切なもの 三部作シリーズです。全体の訴求テーマは、日常防災への意識改革です。手許にあって毎日目に触れ、ストレスにならない程度に防災を意識化する謂わばリマインダーとしてのコンパクトな防災用品の役割を共有できればとの強い思いで、関係者一同作品製作に取り組みました。防災生活研究会では本動画を SNS 等で広く普及しながら、一人ひとりの「備える心」こそ、首都直下地震に遭遇しても人的被害を極力抑える道であるということ伝えてまいります。今年、3月11日で東日本大震災10年という節目を迎えます。緊急事態宣言下の今こそ、ステイホームで一人でも多くの人にゆっくり視聴いただき、啓発につなぎたいと考えます。（ネット検索は[防災生活の部屋](#)又はa4t.jp/bosai、別紙チラシもご参照ください。）

防災ドラマ
 東京（携帯式）ヘルメット物語
 <概要> 告知版



(30秒)

三編（一編約6分）の内容

- ①東京の娘を案じる新潟の母
「母の愛」
- ②営業にも通じる備える精神
「当たって砕ける前」
- ③守りたい人がいるから防災
「本当に大切なもの」

脚本・監督 滝本祥生
 製作協力 B.LET'S
 製作 防災生活研究会

本企画ご案内ページ



①母の愛



②当たって砕ける、前に準備を



③本当に大切なもの



【お問い合わせ先】防災生活研究会（事務局：株式会社マキトー・コンフォート）
 広報責任者：巻瀨達夫 草野由紀子 TEL：025-284-1853 Email：cfh@makitou.com
 緊急連絡先：090 3063 8104 巻瀨 防災生活研究会 URL：<https://a4t.jp/bosai>
 ※掲載用の画像などのご提供も可能ですので、必要な方はメールでお問合せください。